

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

Zoom によるオンライン講義

受講希望者は、前日までに、下記連絡先へお問い合わせ下さい。

記

演題：with コロナ時代における歯科の重要性
ーオミクロン株の特徴と誤嚥性肺炎が多発している COVID-19 の現状ー

講師：日本大学歯学部感染症免疫学講座・教授 今井 健一 先生

日時：2023年4月20日(木) 18:30ー20:00

内容：

昨年はオミクロン株の爆発的感染がおきましたが、ワクチン接種も進み当初は重症化や死亡者数がある程度抑制されました。しかし、軽傷が多いはずのオミクロン株でしたが、先の第8波では、なぜか COVID-19 による死亡者数が過去最高を更新し続けました。その原因が、高齢者が誤嚥性肺炎や細菌性肺炎で死亡するケースの急増です。病院や高齢者施設でコロナ患者が誤嚥性肺炎を繰り返すのみならず、自宅で療養中の感染者が誤嚥性肺炎を発症し、病院に行く前に亡くなるケースが急増したのです。誤嚥性肺炎の頻発により病院や救急が逼迫しました。オミクロン株以前はコロナ自体、すなわちウイルス性肺炎による死亡から、現在では誤嚥性肺炎による死亡へと COVID-19 対策が変化し、高齢者の誤嚥性肺炎対策が喫緊の課題となっています。

パンデミックの終息には歯科の力が必須であると言えます。
本講演では、私たちが発表したオミクロン株の特性、なぜ爆発的感染を引き起すのかについて、及びオミクロン株流行下のCOVID-19の現状をお話させていただきます。口腔の不衛生とコロナの関係も知見が積み重なっています。with コロナの今、なぜ誤嚥性肺炎対策が最も重要なのかを考えてみたいと思います。

担当：長澤 祐季（摂食嚥下リハビリテーション学分野）

y.nagasawa.swal@tmd.ac.jp

※メールの件名に【4/20 大学院特別講義】と記載をお願いします。